



間伐作業(神々廻の森)



灌木の整理(神々廻の森)

ふるさとの原風景として思い浮かぶ里山。しろい環境塾の活動フィールドは、白井市の面積の6割を占める里山です。活動を始めて10年、当初はゴミの不法投棄なども行なわれていた人工林や竹林も、今では明るい林へと生まれ変わり、自然体験や環境教育の場として、市民が憩う、心のふるさととなっています。

美しい里山を次世代へ

しろい環境塾は、2001年に千葉県白井市で初めて認定されたNPO法人です。白井市は、その面積の60%を里山里山が占めています。しかし、雑木林や竹林、人工林な

どの荒廃が進み、ゴミの不法投棄なども行なわれていました。しろい環境塾では、里山を生かしたまちづくりをテーマに、このような樹林地の保全・整備に取り組んでいます。活動のフィールドは、白井市神々廻(しば)地区の白井

森へへの心のふるさとを

神々廻地区には、開発の手が入っていない雑木林が残されています。その一角に運動公園が作られ、市民の健康づくり、自然体験、環境教育の場として活用されています。しろい環境塾では、自然の生態系を守りながら、行政と協働して雑木林の保全活動を行いました。

平塚地区には竹林が多く、地権者の高齢化などで手入れが行き届かない竹林は数となり、昼間でも薄暗い状態と



竹林の手入れ

なっていました。同会ではこの竹林に手を入れ、切り出した竹で竹炭を焼くなど、整備活動を持続してきました。現在では明るい林がだんだんとよみがえり、地域住民と会員との交流も始まり、森づくりを通して、心のふるさと

が作られてきています。

「新神々廻の森」を整備

2009年度には2002年から整備してきた運動公園の森にスポーツ施設が建設されることになりましたが、一

方、神々廻の森に隣接する未整備の森林約2.1ヘクタールを特別保全緑地として市が管理することにしました。しろい環境塾では、市の受託事業として、2009年から本年1月にかけて、この森林を整備しました。

新しく整備された森林には、「新神々廻の森」の愛称がつけられ、今後も同会が手入れを行なっていくことになりました。

持続的な整備活動を行うため、同会では、チェンソー、刈払機などの安全対策のため、各種講習会も開催し、人材の育成にも力を入れています。

国際生物多様性年を迎えて

2010年は国際生物多様性年であり、10月には名古屋で国際会議(COP10)が開催されます。日本では、絶滅危惧種の約半数が、しろい環境塾のフィールドのような里山に生息していると言われています。

同会では、里山を生かしたまちづくりのサブテーマ「里山の生き物復活作戦」および「里山の景観づくり」として、生物多様性の保全にも取り組んでいます。

年間を通して、田んぼの生きもの調査や、落ち葉で焼きいも、平塚の里での音楽会、流しそうめんなど、子どもたちが里山とふれあい、生命の大切さを体感できる環境教育の場を提供しています。



川の生きもの調べ



炭焼風景

しろい環境塾

- 会員数 130人
- 活動フィールド 千葉県白井市 神々廻地区、同 平塚地区
- 作業日 毎週月、水、土 午前10時～ 平塚の里第2地区(白井市平塚地区延命寺から北に200m)
- ホームページ <http://kankyojuku.sunnyday.jp>